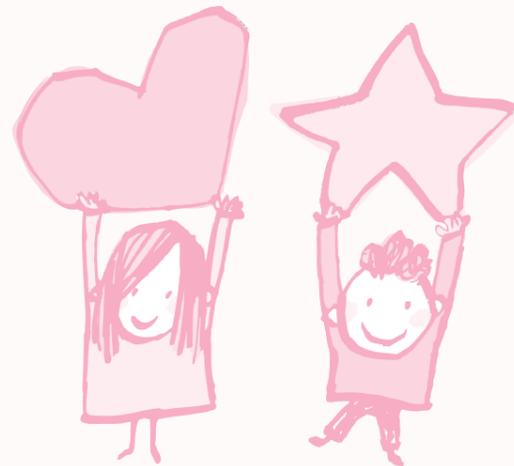


公益財団法人 がんの子どもを守る会
2023年度事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT

Apr.01,2023～ Mar.31,2024



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2023年度収支報告	6
 2023年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業及び関連事業	11
③治療研究事業	16
④総合支援施設運営事業	18
⑤小児がん・難病対策	19
⑥支部活動	20
⑦広報・啓発・募金活動 等	21
⑧国際活動	27
⑨奨学金事業	27
⑩ボランティアコーディネート・研修会	27
⑪調査研究協力	28
⑫年次大会	28
⑬クリスマスプレゼント	28
⑭物品・ボランティアのご協力	29
 寄付・募金者一覧	30

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



2023年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の話題が日常的にはほとんど聞かれなくなり、社会全般の活動と共に当会の事業活動もほぼコロナ以前のレベルに戻ることが出来たと感じております。とはいえ、感染症弱者である小児がん患児・家族のための施設運営を大きな事業活動の一つとしている当会にとっては、コロナだけでなく様々な感染症対策等への継続的な配慮は日常的に必須な対応であり、職員やボランティアの皆様がその面での負担を乗り越えて、事業活動を推進して頂いたことに感謝しております。

年度を通じた事業活動内容の詳細は本報告書をお読みいただきたいと思いますが、慢性的な事務局人員の不足という実務面でのハードルを乗り越え、2023年度も事業全般に亘って事業計画に沿った活動を実施することが出来ました。また財政面では、昨年同様に一般寄付金収入の低迷傾向がありますが、篤志の方からの大きな特別寄付を頂戴し、お陰様で余裕のある収支決算が実現しました。その結果、当会の基幹的事業を含む事業全般の着実な実施に加え、設立時からの重要事業であり長期に亘って継続的な財政的裏付けが必要な、療養助成事業及び研究助成事業の将来を見据えた積み

立てをすることが出来ました。

本年度はまた、2022年度末に閣議決定した国の第4期がん対策推進基本計画をうけて、全国の地方自治体でのがん対策推進基本計画改定が進み、地域によって差異はあるものの、2023年度末前後には各地で新たな基本計画に則った小児がん対策がスタートしています。当会は、2022年度の国宛ての小児がん対策に向けた要望書に引き続き、2023年度は地方自治体宛て要望書を取りまとめ提出しており、2024年度以降は要望内容を念頭に置きながら小児がんを取り巻く環境の更なる改善をモニターする活動を地道に進めて参ります。

このように、当会が2023年度を無事に乗り越えることができ、更には新しい年度を十分な力を溜めてスタートできますことに対して、常日頃から当会の活動に多大なご支援を頂いている皆様、事業活動に直接参加して下さっている方々、そして限られた人数で日々の活動を担っていただいている事務局職員の皆さんに改めて御礼を申し上げます。

どんな環境下でも小児がん患児・家族そして経験者の支援を続けて行くのが私たちの使命であり、不肖私を含めた理事並びに事務局職員一同、そのための努力を続けて参る所存であります。当会の活動をご理解いただきご支援を頂いている皆様におかれましても、当会の活動への一層のご理解と継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年4月吉日



組織概要

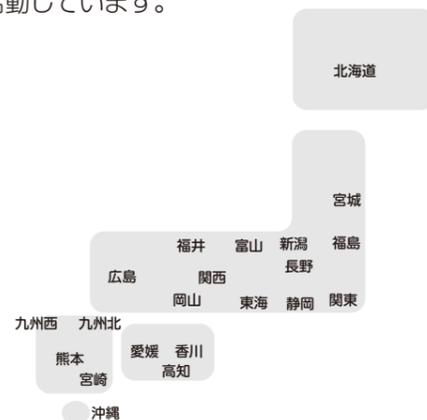
※2024年3月31日現在

名称	公益財団法人 がんの子どもを守る会
設立	1968年10月31日
設立趣旨	当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
主務官庁	内閣府
主たる事務所	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
従たる事務所	亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
組織	理事 13名（理事長1名、副理事長3名） 監事 1名 評議員 10名 職員 26名 普通会员 1,523名 賛助会員 235名（法人14社、個人221名）

支部 当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地域の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



役員名簿

（肩書は2024年3月末時点のものです）

理事長	山下 公輔 親/元PwCアドバイザー/シニアアドバイザー
副理事長	細谷 亮太 当会嘱託医/聖路加国際病院 顧問 近藤 博子 親/元 当会ソーシャルワーカー 増子 孝徳 親/弁護士
理事	橋都 浩平 元 東京大学医学部 小児外科学 教授/ 株式会社メディカルノート社 取締役/ 株式会社ジャパン・メディカルカンパニー 取締役 張 光陽 親/当会九州北支部 幹事 坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事 森下 さふみ 親/当会関西支部 代表幹事/ NPO法人日本クリニクラウン協会 相談役 田中 徹 親/当会会員 井上 敏 当会会員 舛本 大輔 小児がん経験者 酒井 信夫 親/当会会員 丹野 泰 常務理事/当会事務局長
監事	三川 勝夫 親/三川会計事務所 代表
評議員	河 敬世 大阪母子医療センター血液腫瘍科 顧問/ 近畿ブロック血液センター医学セミナー 顧問 深澤 重幸 親/株式会社コトブキシーティング 代表取締役会長 西田 知佳子 NPO法人ハビネスト 代表 ソーシャルワーカー 平野 朋美 公益社団法人 埼玉県医療社会事業協会 理事 幸島 静枝 親/当会会員 稲田 浩子 社会福祉法人 ゆうかり学園 ゆうかり医療教育センター小児科 部長 鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事 隈部 俊宏 北里大学医学部 脳神経外科 主任教授 本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 小田原通信部 記者 丸山 謙一郎 小児がん経験者
療養援助委員会	前田 美穂 日本医科大学 名誉教授 黒田 達夫 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 総長/ 慶応義塾大学 外科学（小児）客員教授 東京慈恵会医科大学 脳神経外科学講座 教授 聖路加国際病院 小児科 部長 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長 国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/ 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長 柳澤 隆昭 聖路加国際病院 小児科 部長 小澤 美和 国立成育医療研究センター 小児がんセンター長 松本 公一 国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター長/ 川井 章 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科長 康 勝好 埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科 科長

調査研究委員会	橋都 浩平 当会理事 細谷 亮太 当会副理事長 星 順隆 元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部 上別府 圭子 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所家族看護学領域 教授 増子 孝徳 当会理事 山下 公輔 当会理事長
治療研究委員会	山下 公輔 当会理事長 黒田 達夫 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 総長/ 慶応義塾大学 外科学（小児）客員教授 東邦大学 名誉教授 小原 明 聖路加国際病院 小児科 部長 小澤 美和 さくら耳鼻科小児科医院 副院長 陳 基明 国立大学法人 千葉大学大学院医学研究院 小児外科学 教授 菱木 知郎 兵庫県立大学 看護学部 教授 丸 光恵 (専門委員) 野寄 美和子 獨協医科大学 特任教授/ 獨協医科大学埼玉医療センター 放射線治療センター長 逸見 仁道 アズサイエンス株式会社 小田原営業所 中澤 温子 埼玉県立小児医療センター臨床研究部 部長
小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会	関谷 亜矢子 フリーアナウンサー 大賀 正一 日本小児血液・がん学会 理事長 松井 秀文 認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長 沢辺 隆雄 産経新聞 論説副委員長 田中 徹 当会理事
SMSキャンプ委員会	稲田 浩子 当会評議員 高木 正稔 東京医科歯科大学大学院 医学部総合研究科茨城県小児・周産期地域医療学講座 寄附講座教授 渡邊 輝子 済生会横浜市東部病院 看護部長 本橋 由紀 当会評議員
富士山キャンプ委員会	別所 文雄 杏林大学医学部附属病院 小児科 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 部長 安野 啓一郎 児童自立支援施設 長崎県立開成学園 高土 陽一郎 川崎市立山田学童保育室
名誉顧問	柳田 邦男 作家



会の歴史

(年度)		(年度)	
1962	設立趣意書作成	2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部 HOPE が合併 関東支部となる
1966	NHKカメラリポートで紹介	2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会	2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金	2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
1969	小児がん全国登録開始	2008	創立40周年記念事業がんと子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情	2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成/大阪事務所開設 高知支部設立総会
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現	2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足	2011	東日本大震災緊急療養援助実施
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置	2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足	2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行	2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患者が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
1976	特定公益増進法人の認定	2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん こどもでんわ相談室」開設
1978	当会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会	2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム	2017	アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 業務委託から直営による運営を開始 アフラックペアレンツハウス浅草橋及び亀戸 施設の拡充を目的とする改修・改装工事の実施 アフラックペアレンツハウス浅草橋 リニューアルオープン
1981	新潟支部設立総会	2018	アフラックペアレンツハウス亀戸リニューアルオープン 創立50周年記念式典開催（東京） 創立50周年記念誌発行 国際小児がんの会（CCI）/第50回国際小児がん学会（SIOP）京都開催（運営参画）
1984	日本小児がん研究会発足	2019	アフラックペアレンツハウス大阪 開設10周年（2020年1月） 第3期がん対策推進基本計画推進にむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 小児慢性特定疾病対策見直しにむけた小児がん患者・家族からの要望（要望書）提出 接種済みワクチン再接種費用助成の要望について（要望書）提出
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）	2020	コロナ禍により年次大会をWeb開催/テーマ「小児がんの移行期医療」 アンケート「新型コロナウイルス感染症による小児がん患者・家族の治療・生活への影響について」実施 小児がん対策の更なる充足についての要望書（厚生労働省）提出 切れ目なく教育を受けることができる教育環境の充足を求める要望書（文部科学省）提出
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章	2021	アフラックペアレンツハウス亀戸開設20周年（2021年2月） 「小児がん経験者の健康管理サイト」開設
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム	2022	小児・AYA世代がん対策政策提出のためのワーキンググループの意見を取り纏めて、 「小児がん患者・家族からの要望書」として厚生労働大臣および文部科学大臣へ提出 「小児がん経験者のための健康管理応援ガイド」刊行
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会	2023	国の第四期がん対策推進基本計画を受けて各都道府県に対する小児がん患者・家族からの要望書提出
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成		
1994	小冊子「こどものがん」、疾病別リーフレット刊行		
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会		
1996	東京支部 HOPE 設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）		
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入		
1998	創立30周年記念第30回 SIOP 国際小児がん学会親の会会議		
1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）		
2000	「小児がん患者とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章		
2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転		
2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会		



2023年度収支報告 (2023年4月1日～2024年3月31日)



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	4,331,375			4,331,375
普通預金利息	4,984			4,984
定期預金利息	7,201			7,201
投資有価証券利息	4,319,190			4,319,190
受取寄付金	320,911,308		95,820,304	416,731,612
特定寄付金	4,075,060			4,075,060
一般寄付金	95,820,303		95,820,304	191,640,607
受取寄付金振替額	221,015,945			221,015,945
受取協賛金	0			0
ゴールドリボン協賛金収入	0			0
受取補助金等	2,675,975			2,675,975
受取補助金等振替額	2,675,975			2,675,975
受託料	537,468			537,468
調査研究受託料	0			0
相談支援受託料	537,468			537,468
受取利用料	4,070,800			4,070,800
施設利用料	3,623,300			3,623,300
リネン利用料	447,500			447,500
雑収益	2,006,247	1,875,000		3,881,247
雑収益	2,006,247	1,875,000		3,881,247
指定正味財産からの振替額	0			0
指定寄付金	0			0
経常収益計	334,533,173	1,875,000	95,820,304	432,228,477
(2) 経常費用				
事業費	324,191,707	573,458		324,765,165
人件費	95,341,953			95,341,953
法定福利費	11,244,882			11,244,882
給与	81,044,552			81,044,552
福利厚生費	38,239			38,239
退職給付費用	3,014,280			3,014,280
助成費	28,767,146			28,767,146
療養助成費	18,482,146			18,482,146
治療研究助成費	7,905,000			7,905,000
調査研究助成費	2,380,000			2,380,000
活動費	77,711,837	307,506		78,019,343
会議費	337,289			337,289
旅費交通費	7,245,781			7,245,781
通信運搬費	7,232,568			7,232,568
消耗品費	6,122,447			6,122,447
修繕費	2,422,310			2,422,310
印刷製本費	2,217,739			2,217,739
光熱水料費	11,480,084			11,480,084
保険料	1,059,184	16,816		1,076,000
諸謝金	796,259			796,259
業務委託費	1,121,868			1,121,868
広報費	2,930,496			2,930,496
支援費	1,652,110			1,652,110
図書資料費	154,447			154,447
保健衛生費	499,464			499,464
ゴールドリボン制作費	0			0
宿泊施設運営費	534,919			534,919
租税公課	3,907,300	73,400		3,980,700
リネン賃借料	867,438			867,438
事業協力費	1,728,218			1,728,218
会場費	2,584,437			2,584,437
雑費	7,643,454	330		7,643,784
保守料	6,957,844	216,960		7,174,804
リース料	1,929,110			1,929,110
植栽管理費	216,782			216,782
借地料	844,620			844,620
衛生管理費	4,871,152			4,871,152
消耗什器備品費	354,517			354,517
減価償却費	29,630,771	265,952		29,896,723
建物減価償却額	26,891,643	100,247		26,991,890

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
建物附属設備減価償却額	2,307,157	105,820		2,412,977
ソフトウェア減価償却額	43,200			43,200
什器備品減価償却額	262,440	59,885		322,325
一括償却資産減価償却額	126,331			126,331
奨学金給付費	92,740,000			92,740,000
奨学金給付費	92,740,000			92,740,000
管理費			28,360,475	28,360,475
人件費			18,704,521	18,704,521
給与			14,244,422	14,244,422
法定福利費			2,412,247	2,412,247
福利厚生費			38,332	38,332
退職給付費用			2,009,520	2,009,520
活動費			8,402,111	8,402,111
会議費			16,688	16,688
旅費交通費			269,437	269,437
通信運搬費			547,507	547,507
消耗品費			50,870	50,870
修繕費			55,000	55,000
印刷製本費			749,932	749,932
図書資料費			57,600	57,600
保守料			575,795	575,795
リース料			3,179,913	3,179,913
支払報酬			1,980,000	1,980,000
租税公課			8,100	8,100
消耗什器			69,960	69,960
雑費			841,309	841,309
減価償却費			1,253,843	1,253,843
ソフトウェア減価償却額			175,580	175,580
什器備品減価償却額			960,531	960,531
一括償却資産減価償却額			117,732	117,732
経常費用計	324,191,707	573,458	28,360,475	353,125,640
評価損益等調整前当期経常増減額	10,341,466	1,301,542	67,459,829	79,102,837
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	10,341,466	1,301,542	67,459,829	79,102,837
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	10,341,466	1,301,542	67,459,829	79,102,837
他会計振替額	625,733	△ 625,733		0
税引前当期一般正味財産増減額				
法人税・住民税及び事業税		△ 327,900		△ 327,900
当期一般正味財産増減額	10,967,199	347,909	67,459,829	78,774,937
一般正味財産期首残高	420,001,178	△ 6,136	210,229,320	630,224,362
一般正味財産期末残高	430,968,377	341,773	277,689,149	708,999,299
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	425,200			425,200
受取助成金	425,200			425,200
助成金	425,200			425,200
受取寄付金	275,507,695			275,507,695
指定寄付金	275,507,695			275,507,695
三重ファミリールーム指定寄付金	138,000			138,000
施設運営指定寄付金	175,018,495			175,018,495
奨学金指定寄付金	100,351,200			100,351,200
特定資産評価損益	△ 12,642,660			△ 12,642,660
一般正味財産への振替額	△ 223,691,920			△ 223,691,920
指定寄付金	△ 223,105,186			△ 223,105,186
受取助成金等	△ 586,734			△ 586,734
当期指定正味財産増減額	64,883,635			64,883,635
指定正味財産期首残高	2,011,717,028			2,011,717,028
指定正味財産期末残高	2,076,600,663			2,076,600,663
III 正味財産期末残高	2,507,569,040	341,773	277,689,149	2,785,599,962



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	合計	一般会計	AFLAC ベアレンツハウス 特別会計	三重ファミリー ルーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
財産運用益	4,331,375	4,329,928	1,048	183	216	0
普通預金利息	4,984	3,537	1,048	183	216	0
定期預金利息	7,201	7,201	0	0	0	0
投資有価証券利息	4,319,190	4,319,190	0	0	0	0
受取寄付金	416,731,612	195,715,667	120,526,745	138,000	100,351,200	0
特定寄付金	4,075,060	4,075,060	0	0	0	0
一般寄付金	191,640,607	191,640,607	0	0	0	0
受取寄付金振替額	221,015,945	0	120,526,745	138,000	100,351,200	0
受取補助金等	2,675,975	425,200	0	0	0	2,250,775
受取補助金等振替額	2,675,975	425,200	0	0	0	2,250,775
受託料	537,468	537,468	0	0	0	0
相談支援受託料	537,468	537,468	0	0	0	0
受取利用料	4,070,800	128,000	3,820,500	122,300	0	0
施設利用料	3,623,300	128,000	3,373,000	122,300	0	0
リネン利用料	447,500	0	447,500	0	0	0
雑収益	3,881,247	3,026,647	374,600	0	480,000	0
雑収益	3,881,247	3,026,647	374,600	0	480,000	0
経常収益計	432,228,477	204,162,910	124,722,893	260,483	100,831,416	2,250,775
(2) 経常費用						
事業費	324,765,165	94,604,675	124,722,893	4,023,293	99,163,529	2,250,775
人件費	95,341,953	34,804,007	56,537,946	0	4,000,000	0
法定福利費	11,244,882	3,960,655	6,784,227	0	500,000	0
給与	81,044,552	27,825,772	49,718,780	0	3,500,000	0
福利厚生費	38,239	3,300	34,939	0	0	0
退職給付費用	3,014,280	3,014,280	0	0	0	0
助成費	28,767,146	28,767,146	0	0	0	0
療養助成費	18,482,146	18,482,146	0	0	0	0
治療研究助成費	7,905,000	7,905,000	0	0	0	0
調査研究助成費	2,380,000	2,380,000	0	0	0	0
活動費	78,019,343	30,827,455	40,215,557	2,302,027	2,423,529	2,250,775
会議費	337,289	329,835	0	0	7,454	0
旅費交通費	7,245,781	7,075,740	55,241	114,800	0	0
通信運搬費	7,232,568	3,484,959	2,971,620	48,826	727,163	0
消耗品費	6,122,447	4,196,595	1,827,955	56,547	41,350	0
修繕費	2,422,310	26,730	2,395,580	0	0	0
印刷製本費	2,217,739	1,191,483	335,695	0	690,561	0
光熱水料費	11,480,084	0	11,167,270	312,814	0	0
保険料	1,076,000	110,055	957,405	8,540	0	0
諸謝金	796,259	768,419	0	0	27,840	0
業務委託費	1,121,868	0	996,600	125,268	0	0
広報費	2,930,496	2,930,496	0	0	0	0
支援費	1,652,110	1,152,110	0	500,000	0	0
図書資料費	154,447	12,790	141,657	0	0	0
保健衛生費	499,464	0	399,464	100,000	0	0
宿泊施設運営費	534,919	534,919	0	0	0	0
租税公課	3,980,700	79,600	3,901,100	0	0	0
リネン賃借料	867,438	0	867,438	0	0	0
事業協力費	1,728,218	1,728,218	0	0	0	0
会場費	2,584,437	2,584,437	0	0	0	0
雑費	7,643,784	4,134,717	301,844	27,287	929,161	2,250,775
保守料	7,174,804	216,960	6,896,984	60,860	0	0
リース料	1,929,110	5,600	1,923,510	0	0	0
植栽管理費	216,782	0	216,782	0	0	0
借地料	844,620	0	0	844,620	0	0
衛生管理費	4,871,152	1,807	4,766,880	102,465	0	0
消耗什器備品費	354,517	261,985	92,532	0	0	0
減価償却費	29,896,723	206,067	27,969,390	1,721,266	0	0
建物減価償却額	26,991,890	100,247	25,174,909	1,716,734	0	0
建物附属設備減価償却額	2,412,977	105,820	2,302,625	4,532	0	0
ソフトウェア減価償却額	43,200	0	43,200	0	0	0
什器備品減価償却額	322,325	0	322,325	0	0	0
一括償却資産減価償却費	126,331	0	126,331	0	0	0

科目	合計	一般会計	AFLAC ベアレンツハウス 特別会計	三重ファミリー ルーム 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特 別会計	休眠預金等 活用助成事業 特別会計
奨学金給付費	92,740,000	0	0	0	92,740,000	0
奨学金給付費	92,740,000	0	0	0	92,740,000	0
管理費	28,360,475	28,360,475	0	0	0	0
人件費	18,704,521	18,704,521	0	0	0	0
給与	14,244,422	14,244,422	0	0	0	0
法定福利費	2,412,247	2,412,247	0	0	0	0
福利厚生費	38,332	38,332	0	0	0	0
退職給付費用	2,009,520	2,009,520	0	0	0	0
活動費	8,402,111	8,402,111	0	0	0	0
会議費	16,688	16,688	0	0	0	0
旅費交通費	269,437	269,437	0	0	0	0
通信運搬費	547,507	547,507	0	0	0	0
消耗品費	50,870	50,870	0	0	0	0
修繕費	55,000	55,000	0	0	0	0
印刷製本費	749,932	749,932	0	0	0	0
図書資料費	57,600	57,600	0	0	0	0
保守料	575,795	575,795	0	0	0	0
リース料	3,179,913	3,179,913	0	0	0	0
支払報酬	1,980,000	1,980,000	0	0	0	0
租税公課	8,100	8,100	0	0	0	0
消耗什器備品費	69,960	69,960	0	0	0	0
雑費	841,309	841,309	0	0	0	0
減価償却費	1,253,843	1,253,843	0	0	0	0
ソフトウェア減価償却額	175,580	175,580	0	0	0	0
什器備品減価償却額	960,531	960,531	0	0	0	0
一括償却資産減価償却費	117,732	117,732	0	0	0	0
経常費用計	353,125,640	122,965,150	124,722,893	4,023,293	99,163,529	2,250,775
評価損益等調整前当期経常増減額	79,102,837	81,197,760	0	△ 3,762,810	1,667,887	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	79,102,837	81,197,760	0	△ 3,762,810	1,667,887	0
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	79,102,837	81,197,760	0	△ 3,762,810	1,667,887	0
税引前当期一般正味財産増減額	79,102,837	81,197,760	0	△ 3,762,810	1,667,887	0
法人税・住民税及び事業税	327,900	327,900	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	78,774,937	80,869,860	0	△ 3,762,810	1,667,887	0
一般正味財産期首残高	630,224,362	656,988,376	77,156,262	8,856,096	△ 112,776,372	0
一般正味財産期末残高	708,999,299	737,858,236	77,156,262	5,093,286	△ 111,108,485	0
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	425,200	425,200	0	0	0	0
受取助成金	425,200	425,200	0	0	0	0
助成金	425,200	425,200	0	0	0	0
受取寄付金	275,507,695	0	175,018,495	138,000	100,351,200	0
指定寄付金	275,507,695	0	175,018,495	138,000	100,351,200	0
三重ファミリールーム指定寄付金	138,000	0	0	138,000	0	0
施設運営指定寄付金	175,018,495	0	175,018,495	0	0	0
奨学金指定寄付金	100,351,200	0	0	0	100,351,200	0
特定資産評価損益	△ 12,642,660	△ 12,642,660	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 223,691,920	△ 425,200	△ 120,526,745	△ 138,000	△ 100,351,200	△ 2,250,775
指定寄付金	△ 223,105,186	0	△ 120,526,745	△ 138,000	△ 100,351,200	△ 2,089,241
受取助成金等	△ 586,734	△ 425,200	0	0	0	△ 161,534
当期指定正味財産増減額	64,883,635	12,642,660	54,491,750	0	0	△ 2,250,775
指定正味財産期首残高	2,011,717,028	122,539,860	1,656,288,296	18,548,842	212,089,255	2,250,775
指定正味財産期末残高	2,076,600,663	135,182,520	1,710,780,046	18,548,842	212,089,255	0
III 正味財産期末残高	2,785,599,962	873,040,756	1,787,936,308	23,642,128	100,980,770	0



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時、高額な小児がんの治療費のほとんどは自己負担でしたが、現在は一部を除き公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じている状況に変わりはありません。当事業は、経済的な援助を軸にしつつ、現在では、闘病中のご家族が当会や病院のソーシャルワーカー、さまざまな社会制度などの資源とつながるための入り口としての役割も果たしています。当事業の対象者、対象事項等は以下の通りです。

対象者 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- 1) 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」）を引いた額が400万円以下の場合
- 2) 自営業者：前年の確定申告書Bの「課税される所得金額（26）」（専従者がいる場合は「課税される所得金額（26）」に「専従者給与（控除）額の合計額（50）」及び「青色申告特別控除額（51）」を加算した金額）が400万円以下の場合

援助対象事項 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ①以下の治療を要する場合
移植の実施／転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない場合／特殊治療が必要
 - ②治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
 - ③未就学児のきょうだいがいる場合
- 2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

援助対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

援助の決定 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

2023年度	
決定実績	196件
援助決定総額 (1件当たり平均)	¥18,482,146円 (94,297円/件)

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のカンパ」、株式会社ベルライフに加えて、東京レガシーハーフマラソン2023チャリティおよび東京マラソン2024チャリティに参加されたがんの子どもを守る会チャリティランナーからの寄付をいただきました。

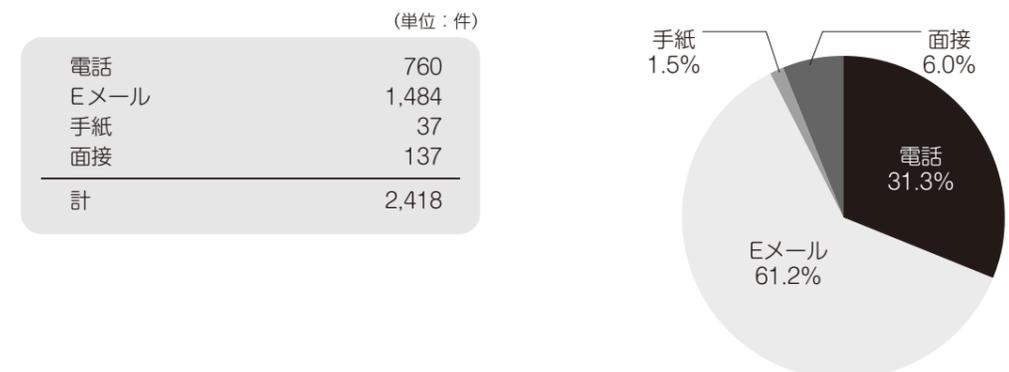
2 相談事業及び関連事業

(1) 小児がん相談事業

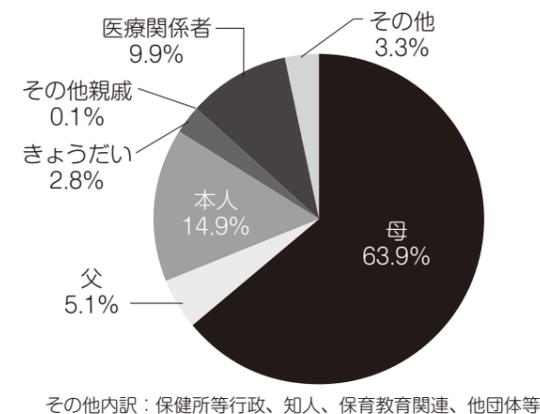
小児がん患児・家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続的なサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来50年以上にわたり相談支援を行っています。2023年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計5名体制で相談に応じました。メール、お電話、対面での相談の他、オンラインを使った相談もありました。相談内容としては、療養生活や経済的な不安、亡くされたご家族のグリーフを含めた相談が変わらずありました。また、ご家族やきょうだい児について、ピアとしての活動についてのご相談もみられました。（詳細は下記をご参照ください）。

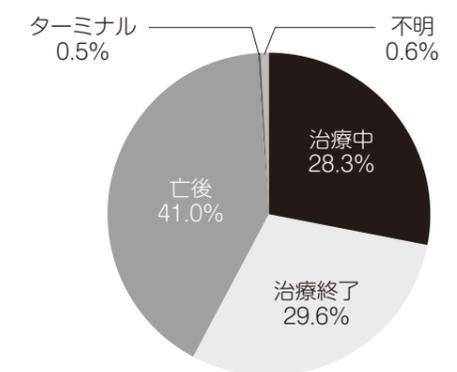
1. 相談方法



2. 相談者属性

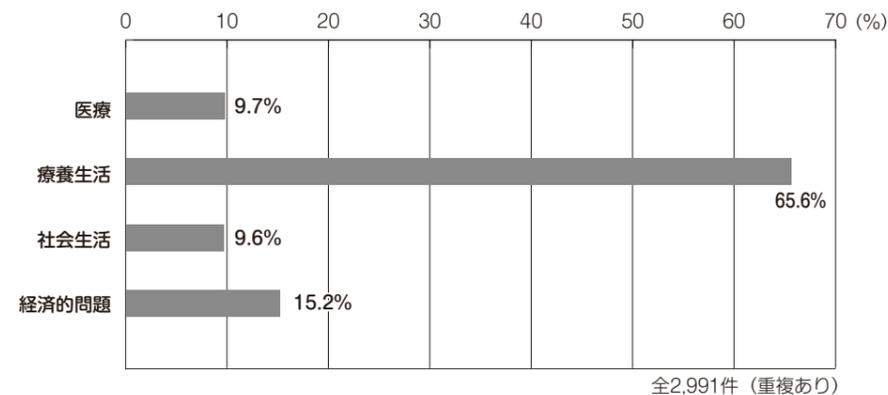


3. 相談時期





4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：心理社会的、治療、晩期合併症、長期フォローアップ、医療者との関係、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、親の会・経験者の会について、家族・きょうだいについて、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、社会制度、心理社会的、保険等

(2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月より、「小児がん こどもでんわ相談室」(フリーダイヤル：0120-307-164) ^{みんなのいりよ} を開設し、平日10時から17時に小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーがお応えしています。本事業の推進のため株式会社星企画様よりご寄付をいただき、より子どもたちが気軽に相談できるようSNS等を活用した形へ2024年度内にリニューアルをし新たなスタートを切ることができるよう検討しています。

(3) 相談会の開催

患児・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

■個別相談会

年月日	内容	相談医	会場
2023年9月26日	小児がん全般（グリーフなど）	細谷 亮太 先生 (当会嘱託医/聖路加国際病院 顧問)	東京
2023年10月5日	小児科	澤田 明久 先生 (大阪母子医療センター 小児科)	大阪
2023年10月26日	整形外科	川井 章 先生 (国立がん研究センター中央病院 希少がんセンター)	東京
2023年12月13日	小児がん全般 (患児・きょうだいの心の悩みなど)	小澤 美和 先生 (聖路加国際病院 小児科)	東京
2024年2月9日	脳腫瘍	柳澤 隆昭 先生 (東京慈恵会医科大学 脳神経外科学講座)	東京

(4) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス亀戸（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年7回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、祖父母の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かった家族、15歳～19歳のお子さまを亡くされたご家族というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカー司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。サポートグループが終了した後も、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後頃に同窓会と称した集まりなどを開催し継続的な交流を行っています。

2023年度は希望者がグループ定数に満たなかったため、開催を見送りました。

(5) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2023年度は2024年2月4日（日）に現地とオンラインのハイブリッドで開催し、5団体8名が参加しました。今年も小児がん経験者の会のリーダーだけではなく、小児がん経験者で会のメンバーとして活動したい方にもご参加いただき、コロナ禍での活動の工夫や取組みを分かち合い、ピア活動の意義を共有する時間となりました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2023年度は2団体に計40,000円の活動費の支援を行いました。また小児がん経験者の企画（プロジェクト）に対する助成金制度として、RBピアサポートの会に100,000円、シェイクハンズ！に80,000円、Heart t♡Heartに50,000円の支援を行いました。



③小児がん経験者のオンライン交流会 Surv un café～さばかふえ～

2003年より開催している小児がん経験者の会リーダーの集いの中で「それぞれの会の枠を超え、多くの小児がん経験者同士が集える場があるといいな」という声が上がリ、小児がん経験者の会に所属している・していないに関わらず、広く小児がん経験者の方であればどなたでもご参加いただけるオンライン交流会を2023年度にスタートしました。小児がん経験者＝survivorと多くの方に、和やかに気軽にご参加いただきたいとの思いを込めたcaféを合わせ、Surv un café～さばかふえ～と名付け、2023年6月4日に第1回目を開催しました。10月29日に第2回目、2024年2月4日には国立成育医療研究センターと当会共催でのイベント「小児がん交流フェスタ」とコラボしてハイブリッドにて第3回目を開催しました。

各回初参加の方を含む20名ほどの参加者が集まり、長期フォローアップや晩期合併症、就労、妊孕性、アピランスのこと等に話題が広がり、ピア同士ならではの交流の時間となりました。

Surv un caféから“よりテーマを絞った集まり”として「さばかふえアピランス部(仮)」が生まれ、12月9日にオンラインにて5名の参加者と部活動計画ランチミーティング、2024年3月16日～17日には部活動合宿パジャマナイトを10名の参加者とともにペアレンツハウス亀戸にて開催いたしました。

④スマートムンストーンキャンプ

スマートムンストーンキャンプ(SMS)は告知をされて小児がん向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3名の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。「病気について説明を受けている子どもたちが多数派になるまで見守る」という初期の目的を達成し、その後はこのキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くするため、そして新しい仲間を迎えるために、これまでのスマートムンストーンキャンプを礎として2011年より小児がん経験者が主体となって運営するキャンプを開催することになりました。2012年度からは当会の事業として、ボランティアを中心とした実行運営グループが企画運営をしながら実施しております。2023年度は8月18日(金)～20日(日)の日程でキーブ自然学校において、コロナ禍以来4年ぶりに現地で開催することができました。様々なレクリエーションやアクティビティ、普段なかなか話にくいことなど思いを共有できる場としてのお話会などを行い、参加した子どもたちやボランティアさんからは「久しぶりに直接会えて、お話ができてよかった」「とても楽しくてあっという間だった」「また来年もきたい」という声がたくさん聞かれました。本年度の参加は、小学校低学年から成人までの13名、ボランティア17名、小児がん経験者のボランティアリーダー6名、スタッフ5名、事務局2名の計43名でした。

協賛：公益財団法人毎日新聞東京社会事業団

(6) 小児がんピアサポーター研修

①ピアサポーター研修

小児がん患児・家族にとって、同じ問題に直面している仲間(ピア)に寄り添い、ともに考え、支援(サポート)するピアサポーターの存在は、大きな心の支えとなります。一方、同じ経験をしたからこそ同調しすぎてしまうのではないかと、どこまで相談に乗ってもいいのだろうか、という不安の声も聞かれます。そこで小児がん経験者・ご家族(親/きょうだい)17名の方を対象に、2023年10月～2024年2月に月1回約2時間、オンラインにてピアサポーター研修を開催し、全5回の研修参加と各研修受講後の課題提出をもって修了証を発行しました。

②ピアサポーターによるオンライン交流会

2023年度初めての試みとして、2021年から開催をしている全5回にわたるピアサポーター研修を修了した方々のご協力のもと、オンライン交流会を開催しました。

1回目は「治療中、治療後のこと」、2回目は「小児がんでお子さまを亡くされた親の交流会」とテーマを分けて開催し、各回10名程度の方にご参加頂きました。ピアサポーターが進行役となりピアならではのあたたかい交流の場となりました。

(7) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。2023年度は、6月11日(日)の午前、浅草橋ヒューリックカンファレンスにて第26回親の会連絡会を開催いたしました。コロナ禍以来、4年ぶりに対面での実施と、併行してオンラインでの参加もいただくハイブリット開催でしたが、当日は、会場に25名、オンラインは12名の16団体37名のご参加がありました。

②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は合計30団体に852,110円の活動費の支援を行いました。

(8) きょうだいの支援

①「富士山にアタック!! 2023」

小児がんの子どもをきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社と共催で、小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。コロナ禍での現地開催の中止を経て、23回目となる2023年度は8月5日～7日の日程で4年ぶりに現地での開催が実現しました。小児がんの子どもをきょうだい23名、ボランティア5名、他、医師及び当会職員等を含む合計35名が参加しました。晴天に恵まれた初日は、屋外でのレクリエーションや河口湖湖上祭の花火を楽しみながら親睦を深め、2日目は5時30分に民宿を出発し、皆一緒に6合目まで登り、6合目からはペースに合わせて大きく2つのグループに分けて富士登山をしました。最終日は不安定な天候でしたが、遊覧船に乗り、道の駅でのお買い物を楽しみました。キャンプ中「きょうだいのお話会」も開催し、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
協力(物品提供)：株式会社ガイア



②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!! 参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものきょうだいたちにより“てんとうむし”と名付けられました。これはテントウムシ（天道虫）が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、“子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ”という意味を込めています。同じ小児がんの子どものきょうだい同士が、こころにとめていた想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感を持てる場として、2023年度は6月25日に4名の参加者とともに現地とオンラインのハイブリッドにて交流会、12月17日はペアレンツハウス亀戸を会場に6名の参加者とクリスマスパーティー、2024年1月14日は特別企画「みんなで高尾山に登ろう!」を1家族5名の参加にて開催いたしました。

アイスブレイクやレクリエーションなどを通じて、きょうだい同士がスムーズに繋がる機会となり、きょうだいにとって大切な時間となりました。

③ Sib-Ring Time

Sib-Ring Time は、親御さんからの「きょうだいたちが定期的集える場があればいいな」というお声を受け、きょうだいを意味する siblings と輪という意味の ring を合わせて Sib-Ring と名付け、2022年5月に毎月第4木曜日17時30分～約1時間、小児がんの子どものきょうだいなら誰でも参加でき、事前申込不要、途中参加・途中退出自由のオンライン交流会をスタートしました。

2023年度は工作やクイズ、ダンスなど参加者の希望するレクリエーションを行い、7月には夏祭り、10月にはハロウィンパーティーと毎回バラエティに富んだ内容で開催しました。来年度も引き続き毎月第4木曜日に開催いたします。

(9) 車椅子・ウィッグ貸し出し事業

当会では、患児・ご家族、企業からご寄付でいただいた車椅子及びウィッグを管理し、治療中や治療後に一時的に車椅子、ウィッグを必要とされる患児・ご家族へ無料で貸し出しをおこなっております。

2023年度の貸し出し件数は2022年度からの継続を含め、車椅子が8件、ウィッグは3件となりました。特に車椅子は小児用の車椅子を社会資源で賄うことは難しい場合が多く需要があります。車椅子、ウィッグともに外出のためや通学のために必要なケースが見受けられました。

ご利用される皆さまには、車椅子もウィッグもご寄付で頂戴した大事な資源であることをご理解のうえ、丁寧に大切に使用していただいております。

3 治療研究事業

(1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集しました。審査の結果、33件（助成総額7,905,000円）を助成しました。

〈2023年度 治療研究助成一覧〉

(助成期間：2023年10月1日～2024年9月30日) * 所属は決定時点

氏名 (敬称略: 順不同)	所 属	研究名称
井口 雅史	京都府立医科大学大学院医学研究科	抗腫瘍抗体発現間葉系幹細胞によるドラッグデリバリーシステムの開発と展開
池田 順治	横浜市立大学附属病院	KMT2A::MLLT3 陽性かつMECOM 高発現を有する難治性急性骨髄性白血病に対するL-アスパラギナーゼを用いた新規治療戦略の構築
石本 健太	九州大学大学院医学研究院	神経芽腫に対する、高活性NK様細胞製剤GAIA102と免疫チェックポイント阻害薬の併用効果の検討
井上 健	地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター	小児腫瘍のグルーブスタディに有用な病理組織分類アトラス・資料の適時リニューアルおよび小児腫瘍病理診断の教育研修活動
梅田 雄嗣	京都大学大学院医学研究科	ダウン症候群における胚細胞腫瘍発症メカニズムの解明
大植 孝治	兵庫医科大学	小児腎腫瘍に対する新規治療法開発のための国際臨床試験 UMBRELLA-J
勝海 大輔	千葉大学大学院医学研究院	神経芽腫による抗腫瘍免疫抑制機序の解明と新規免疫療法の開発
河北 一誠	国立大学法人北海道大学大学院医歯学専攻外科学講座	肝芽腫発生に関わるエピゲノム異常の誘導メカニズムの解明
木下 英幸	千葉県がんセンター	PDXモデルを用いた横紋筋肉腫の腫瘍進展におけるレドックス制御の解明
工藤 涉	千葉大学医学部附属病院	エピゲノム異常に着目した肝芽腫の新規治療標的の探索
工藤 節美	大阪成蹊大学	小児がんの子どもと家族の在宅療養を支えるための往診医と訪問看護師の連携
小林 京子	聖路加国際大学大学院	思春期小児がん患者のための妊孕性温存に関するディシジョン・エイドの作成
小堀 宅郎	大阪大谷大学薬学部	小児脳腫瘍に対する革新的”自然免疫”チェックポイント阻害療法の開発
坂口 大俊	国立研究開発法人国立成育医療研究センター	血液腫瘍の小児患者に対する同種造血幹細胞移植における移植後シクロホスファミドを用いた移植片対宿主病予防法の検討
島崎 紀子	名古屋大学医学部附属病院 小児がん医療センター	神経芽腫に対する機能性ライガンド分泌T細胞の安全性評価および安全性の向上
進藤 彰人	東京大学大学院医学系研究科内科学専攻	小児がんサバイバーの晩期心血管合併症と運動耐容能に関する研究
高島 光平	国立大学法人滋賀医科大学	小児がん患者のサルコペニア予防に向けた栄養療法の確立
藤間 勝子	国立研究開発法人国立がんセンター中央病院	小児・思春期がん患者の治療に伴う外見変化に対して、医療者が提供するアピアランスケアに関する調査
富田 祐介	岡山大学医学部	びまん性正中神経腫マウスモデルにおけるMEK阻害薬と腫瘍溶解ウイルスの併用療法
西村 雄宏	千葉大学大学院医学研究院	神経芽腫に対する抗GD2抗体及びiPS細胞由来NKT細胞を用いた免疫療法開発
橋井 佳子	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	腸内細菌を利用した小児用経口がんワクチンの開発
長谷井 嬢	岡山大学学術研究院医歯薬学域	肉腫治療による長期入院患者のメンタルケアを目指したメタバース活用
原(野上)愛	就実大学 薬学部	L-アスパラギナーゼアレルギーならびに薬剤耐性に関わるサイトカインプロファイルの解析
菱ヶ江恵子	山口県立大学	小児がんの子どもおよび小児がん経験者の気持ちと親子関係に関する研究
樋渡 光輝	帝京大学	小児血液および固形がんにおける新規分子標的療法の確立
船戸 道德	国立病院機構長良医療センター	Li-Fraumeni 症候群診療ガイドラインの評価及び改訂に関する研究
細谷 要介	聖路加国際病院	一般総合病院の機能を活かした小児がん経験者の人間ドックシステムによる晩期合併症とQOLの生涯コホート調査と自立的な健康管理能力の育成～他機関との連携
牧瀬 尚大	千葉県がんセンター	ナノボアシーケンサーを用いた小児肉腫に対する統合病理診断
森 健	兵庫県立こども病院	標準的化学療法を行った進行期小児リンパ芽球性リンパ腫の予後因子探索を主目的とした多施設共同研究 JPLSG-ALB-NHL-14
山崎 夏維	大阪市立総合医療センター	中枢神経腫瘍に対するDNAメチル化解析による分子分類の臨床的有用性を評価する多施設共同前方視的観察研究
吉野 浩	杏林大学医学部	白血病幹細胞の酸化リン酸化をターゲットとした急性リンパ性白血病治療の開発
力石 健	宮城県立こども病院	フォローアップを終了した小児がん経験者のQOL調査研究
鷺尾 佳奈	岡山大学病院	小児・AYA世代悪性腫瘍患者および同種造血細胞移植患者におけるサルコペニア・栄養状態が有害事象発生および予後に与える影響についての研究



4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3か所あります。小児がんなど小児難病の患児・家族に寄り添う総合支援センターとして運営しております。これまで宿泊部門では、3棟で延べ155,258名の方にご利用いただきました。尚、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の皆様からのご支援により賄われ、また、その他にも多くの企業・個人の方々からのご寄贈やボランティア、医療関係者によるご支援も頂きながら運営を継続しています。

2023年度は、コロナ感染症が5類に移行し、ペアレンツハウスも少しずつ世の中の動きに沿って、館内での規制の緩和を進めました。引き続き、館内で過ごされる患児やご家族を守るために必要な取り組みは続けてまいります。また企業ボランティア、個人ボランティア活動の受け入れを再開したことで、多くの方がペアレンツハウスでの清掃や除菌作業に取り組んでくださり、セミナールームも多くの団体様にご利用いただきました。

■宿泊利用状況

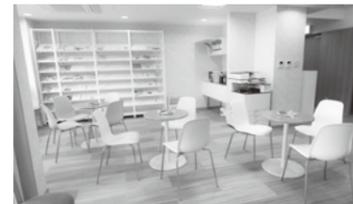
延べ宿泊利用家族数

(2023年4月1日～2024年3月31日) ※ () は前年度

亀戸 (10室) /115家族 (41家族)
浅草橋 (14室) /294家族 (231家族)
大阪 (12室) /222家族 (157家族)
計 631家族 (429家族)



▲ 浅草橋



▲ 亀戸



▲ 大阪

(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

あかつきハウスは、1995年から東京都中央区の区立住宅「築地あかつき住宅」の一室をお借りして、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設として管理・運営をしています。利用料は1泊2,000円（寝具等の維持管理費含む）です。2023年4月1日より2024年3月31日までの間、延べ18家族が利用されました。



②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2023年4月1日より2024年3月31日までの間、延べ14家族27回の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題を訴え、発信し続けてきました。国や地方自治体が運営する様々な協議会に当会会員が患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

■小児・AYA世代がん対策政策提言のためのワーキンググループ

2023年3月に閣議決定された国の「第4期がん対策推進基本計画」に向けて、小児がん患者・家族が参加するワーキンググループ（当会事務局）にて2022年度は厚生労働省、文部科学省に対して医療・福祉、教育、就労の3分野にわたる要望書を提出しております。さらに国の「第4期がん対策推進基本計画」を踏まえて各地方自治体が2024年度からのがん対策推進計画を策定していくことから、2023年度は上記ワーキンググループにて作成した地方自治体向けの「要望書」を夏から秋にかけてすべての地方自治体向けに提出しました。

■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会など

全国	小児がん中央機関アドバイザリーボード
北海道	「ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業（病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業）」教育保障検討会議
宮城	東北ブロック小児がん医療体制協議会 宮城県がん患者会・サロン ネットワークみやぎ
福島	東北ブロック小児がん医療体制協議会
関東	がん対策推進協議会（栃木県） がん対策推進協議会（東京都） 小児・AYA世代がん診療連携協議会（東京都）
新潟	慢性疾患児童等地域支援協議会（県、新潟市） 新潟県がん対策推進協議会
富山	がん対策推進協議会
福井	がん委員 がん対策推進計画策定委員会 がん治療相談支援部会 県難病患者団体連絡協議会
静岡	慢性疾患児童等地域支援協議会（県、静岡市）
関西	小児・AYA世代のがん対策部会（大阪府） 近畿ブロック小児がん医療体制協議会
愛媛	がん対策推進協議会 慢性疾患児童等地域支援協議会
高知	がん対策推進協議会
九州北	がん対策推進協議会（福岡県）
九州西	がん教育普及推進協議会（長崎県）
沖縄	がん対策推進協議会 がん診療連携協議会 小児・AYA部会



6 支部活動

当会には全国に21の支部があります(2024年3月31日現在)。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	東 海	講演会「～子どもたちの学びを保障する支援～」 ウェブ開催
6月	九州北	講演会「がんについて考えよう!!」(主催:日本郵便株式会社)
7月	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の会)
	新 潟	病院がプラネタリウム(新潟県立がんセンター新潟病院) ユーチューブ同時配信
	福 井	福井大学病院小児科病棟のぞみお話タイム夏祭り (共催:認定NPO法人日本クリニクラウン協会) ウェブ開催
8月	関 西	のぞみトークきんき2023「最新の小児がん放射線治療について」
	福 島	小児がん啓発市民公開講座(コラッセふくしま)
9月	福 井	ピアサポートカフェ(福井市旭公民館)
	福 井	のぞみ福井小児がん啓発セミナー(福井市総合ボランティアセンター広場) ハイブリッド開催
	岡 山	小児がん家族の交流会(きらめきプラザ)
	愛 媛	市民公開講座「小児がんを知ることにつながろう!～社会みんなで手を取り合って、がんとうまく子どもたち・家族の未来が輝くように～」(共催:愛媛大学大学院医学系研究科小児科学講座)
10月	九州北	レモネードスタンド in ふくおか2023(JR博多駅前)
	関 西	第6回小児がんのこどもの教育を考える講演会(主催:九州大学病院) ウェブ開催
11月	関 西	小児がん経験者の親の交流会
	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の会)
	新 潟	病棟訪問人形劇「ぶんちゃかちゃ」(新潟県立がんセンター新潟病院)
12月	東 海	虹の会(子どもを亡くした親の会)
	沖 縄	第1回スペシャルキッズの未来を語ろう(主催:沖縄かなさ子どもスマイルプロジェクト)
1月	福 島	院内クリスマス会(福島県立医科大学付属病院)
	福 井	福井大学病院小児科病棟のぞみお話タイムクリスマス会 (共催:認定NPO法人日本クリニクラウン協会) ウェブ開催
2月	静 岡	交流会「同じ疾患を持つ患者さん・ご家族同士でお話をしませんか?」
	九州北	九州沖縄地域小児がん医療提供体制協議会市民公開講座 「おうちに帰りたいを支える子どもの在宅医療」 ウェブ開催
3月	新 潟	あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)
	関 東	ハイブリッド講演会 「学ぶことは生きること」～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～
	福 井	ピアサポートカフェ(鯖江市市民活動センター)
	東 海	講演会「～がん治療後の合併症! ?ホルモンについて知ろう!～」 ウェブ開催
	関 西	近畿小児血液・がん研究会公開シンポジウム 「ともに学ぼう小児がん がんゲノム医療」(和歌山県立医科大学)
九州北	第53回講演・交流会「未来へつづく医療を考える～小児がん治療の過去、現在、そしてこれから～」 「子どもたちの「生きる力」に寄り添う」(産業医科大学病院)	

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に全国21の支部幹事を対象に年2回開催しております。2023年度は6月と11月の2回開催しました。11月は4年振りにペアレンツハウス亀戸を利用した2日間の連絡会の実施となり、支部から29名の参加で研修や今後の活動についての意見交換が行われました。

7 広報・啓発・募金活動 等

第28回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2023年9月29日(金)～10月1日(日)の会期で第65回日本小児血液・がん学会学術集会(真部淳会長/北海道大学大学院医学研究院小児科学教室)、第21回日本小児がん看護学会学術集会(松澤明美会長/北海道大学大学院保健科学研究院創成看護学分野小児看護学教室)、第28回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムがロイトン札幌(北海道札幌市)にて開催されました。

後援:厚生労働省、北海道、札幌市、公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■三団体合同公開シンポジウム

「小児・AYA世代がん患者家族の心のケア～私たちが今日からできること～」

- ・日 時:2023年10月1日(日)13:40～15:20
- ・座 長:真部 淳先生(第65回日本小児血液・がん学会学術集会会長/北海道大学大学院医学研究院 小児科学教室)
松澤 明美先生(第21回日本小児がん看護学会学術集会会長/北海道大学大学院保健科学研究院 創成看護学分野 小児看護学教室)
- ・シンポジスト:「診断時からの小児がん患児・経験者・家族の心理的負担とその軽減に必要なサポート」
小林 京子先生(聖路加国際大学大学院看護学研究科小児看護学教授)
「こどもサポートチーム10年の歩み:小児がん入院患者を対象とした多職種支援」
塩田 曜子先生(国立成育医療研究センター 小児がんセンターこどもサポートチーム)
「多職種連携の取り組み」
多田羅 竜平先生(大阪市立総合医療センター 緩和医療科 兼 緩和ケアセンター)
「小児・AYA世代がん患者のきょうだいとして」
酒寄 風樹氏(がんの子どもを守る会 会員)
「こころを守りながら生きていくこと」
多田 詩織氏(きゃんでいの会/まもりがめの会 代表)

・参加者:約200名

■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1988年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた31点を展示しました。

- ・期 間:2023年9月29日(金)～10月1日(日)
- ・来場者:約790名
- 助 成:公益財団法人JKAによるオートレース補助事業
- 協 賛:公益財団法人 原田積善会





外部講演

小児・AYAがんや患者家族への理解を深めていただく場として、下記の講演等の機会をいただきました。

年月	内容
2023年5月	小児がん患者家族として当事者の体験を語る (神戸大学医学部保健学科)
2023年6月	がんの子どもを守る会～その成り立ちと、今そしてこれから～ (モルガン・スタンレー)
2023年7、9月	小児がん患者会と患者家族の想い (東京大学医学部公衆衛生学実習)
2023年9月	家族会を覗いてみよう (埼玉県立小児医療センター主催 小児がん患者・家族向けセミナー)
2023年9月	がんの子どもを守る会～小児がん患児・家族とともに (ブリストルマイヤーズ・スクイブ株式会社)
2023年10月	小児がん経験者と健康管理～長期フォローアップの先へ～ (エーザイ株式会社)
2023年11月	小児がん経験者のための健康管理応援ガイド (関東甲信越ブロック 小児がん相談支援研修会)
2023年11月	小児がんについて～ご存知ですか。子どもにもがんがあります。～ (株式会社岡三証券グループ)
2023年12月	第4期がん対策推進基本計画に向けての要望活動について (関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会)
2024年1月	小児慢性特定疾病について思うこと～私と娘の場合～ (千葉県難病相談事業及び小慢自立支援事業研修会)
2024年2月	長期フォローアップの大切さ～移行期医療の落とし穴～ 小児がんを経験して (住友ファーマ株式会社「小児がんと長期フォローアップ」講演会)
2024年3月	小児がん経験者の声～長期フォローアップをテーマに～ (東京都 小児・AYA 世代がん長期フォローアップ研修会)
2024年3月	小児がん経験者のための健康管理応援ガイド (東京都 市民公開講座)

東京マラソンチャリティ Run with HERAT 寄付先団体としての活動

2023年度も以下の2つのマラソン大会が開催され、当会も2022年度に引き続き寄付先団体として参加しました。2023年度は2回目の参加となり、合計で39名の方にチャリティランナーとしてご支援いただきました。ありがとうございました。大会当日(事前の東京マラソンEXPO2024も含む)のブース運営や沿道での応援等で小児がんや当会の周知広報を行うと共に、多くのランナーと思いを共有することができました。ハーフマラソンでは企業ボランティアの方にもご協力をいただきました。なお、ご支援いただいた寄付金はすべて当会の療養援助事業に活用させていただいております。

- ・東京レガシーハーフマラソン 2023 (2023年10月15日)
- ・東京マラソン 2024 (2024年3月3日)

2024年度も引き続き東京マラソン財団チャリティ RUN with HEARTに参画して活動を継続します。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多く企業の有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ4,995個、ストラップ600個、スワロフスキー付ピンバッジ250個、ネックレス400個のご支援をいただきました。

(ゴールドリボンバッジの組み立てにはモルガンスタンレー、サノフィ株式会社、ガーダントヘルスジャパン株式会社のご支援とご協力をいただきました)。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ



ネックレス

チャリティバッグの頒布

小児がん支援のシンボルマークであるゴールドリボンのイラストをプリントしたチャリティーバッグの頒布を行いました。1,000円以上の募金をいただいた方に頒布しました。



▲エコバック



▲トートバック

常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で42か所に設置のご協力をいただいております。

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国33か所に設置していただいております。



▲常設募金箱



▲支援自動販売機



機関紙「のぞみ」の発行

当会創立時より、小児がんに関する情報提供及び当会活動の紹介・報告を目的に「のぞみ」を発行しています。2023年度は、下記の4号を発行しました。

号	発行月	内容
第213号	2023年 4月20日	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画、収支予算、年間スケジュール 小児がん対策への取り組み (小児・AYA世代がん対策政策提言のためのワーキンググループ活動報告) 第4期がん対策推進基本計画が閣議決定 他
第214号	2023年 7月24日	<ul style="list-style-type: none"> 年次大会・分科会報告 小児がん経験者の長期フォローアップ受診促進のための啓発事業のご報告 小児がん親の会連絡会報告 ペアレンツハウスからのたより
第215号	2023年 10月10日	<ul style="list-style-type: none"> 年次大会講演「成人移行支援概論と実際の支援」 「小児がん長期フォローアップから始まった移行期支援の取り組み」 富士山にアタック！2023報告 スマートムンストーンサマーキャンプ2023報告 他
第216号	2024年 2月1日	<ul style="list-style-type: none"> 第28回公開シンポジウム報告 SIOP/CCI 2023参加報告 創立55周年特別企画「お子さまを亡くされたご家族の交流会 ～細谷亮太先生を囲んで」報告 他

小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患者・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。

国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：International Society of Paediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより広がっています。当会では、1月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってもらいたいとの思いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。



■啓発活動など

新型コロナウイルスの感染症対策を十分に講じながら商業施設や病院、大学、行政機関などにご協力をいただき啓発チラシ設置や、ポスターの掲示、ゴールドリボンツリーなどを飾りました。

〈主な協力機関〉（順不同・敬称略）

行政・公共機関等

青森県、八戸市、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、東京都、文京区、江戸川保健所、台東区、世田谷区、大和市立図書館、山梨県、長泉町社会福祉協議会、射水市中央図書館、富山県、福井県、大野市、小浜市、敦賀市、三重県、奈良県、岡山県、岡山市立中央図書館、島根県、香川県、徳島県、オーテピア高知図書館、福岡県、福岡市、小竹町、宮若市、鞍手町、直方市、宗像市民図書館、嘉穂市立図書館（嘉穂、山田、碓井、稲築）、織田美術館、宗像・遠賀保健福祉環境事務所、大分市内保健所、佐賀県、熊本市男女共同参画センターはーもにー、熊本市役所、大分県・市保健所、宮崎市一番街、宮崎市橋通り、浦添市役所、沖縄市役所

病院等医療機関

弘前大学病院医学部附属病院、山形大学医学部附属病院、東北大学病院、宮城県立こども病院、福島県立医科大学附属病院、新潟県立がんセンター新潟病院、埼玉県立小児医療センター、東京都立小児総合医療センター、東京大学医学部附属病院、国立成育医療研究センター、聖路加国際病院、東邦大学医療センター大森病院、神奈川県立こども医療センター、浜松医科大学、名古屋大学、名古屋市立大学病院、福井大学医学部附属病院、福井県済生会病院、福井赤十字病院、福井県立病院、市立敦賀病院、本馬医院、京都市立病院、大阪母子医療センター、大阪市立総合医療センター、岡山大学病院、岡山医療センター、岡山日本赤十字病院、岡山済生会総合病院、倉敷中央病院、川崎医科大学、川崎医科大学総合医療センター、津山中央病院、高梁中央病院、金田病院、岡山労災病院、岡山市立市民病院、倉敷成人病センター、岡山県難病相談支援センター、岡村一心堂病院、広島大学病院、愛媛大学医学部附属病院、佐賀大学医学部附属病院、佐賀県健康づくり財団メディカルセンター、大分大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院、九州がんセンター、九州大学病院、産業医科大学病院、琉球大学附属病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、沖縄県立看護大学

教育機関等

仁愛女子短期大学、敦賀気比高等学校 IAC、若狭高等学校 JCR 部、旭川荘厚生専門学院、矢掛町立三谷小学校・美川小学校、岡山市立豊保育園・豊幼稚園・豊小学校・西大寺中学校、岡山学芸館高等学校、IPU 環太平洋大学保健室、山口県立大学、とんの幼稚園、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄県立鏡が丘特別支援学校

企業・商業施設等

アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店、日本対がん協会、清水建設株式会社、武州製薬株式会社／武州製薬ユニオン、モルガン・スタンレー、株式会社 Fast Fitness Japan、豊川稲荷、サントムーン柿田川、みやの森カフェ、る・ふっくらん、株式会社 プレステージインターナショナル、カフェしえる、株式会社 藤崎、福井県協ビル、鯖江市民活動センター、アピタ福井大和田店、福井本丸ライオンズクラブ、ふくいこどもホスピス、みいつカフェ、小浜ショッピングセンター、カフェ縞、ECO DOG、道の駅若狭おばま、MEGA ドン・キホーテ UNY 敦賀店、焼肉の壺、兵助株式会社、和宗総本山四天王寺、神戸フィルハーモニック、岡山商工会議所西大寺支所、株式会社 エディオン広島本店、pizzeriaMaruburin、ケーキ屋ミネット、ボンジュールネ、オーテピア高知図書館、イオンモールライカム、ワタナベフォトスタジオ、日本郵便株式会社 九州支社、小野薬品工業株式会社、認定 NPO 法人子ども医療支援わらびの会、放課後等デイサービスオリーブ

メディア掲載

読売新聞、河北新報社、宮城テレビ放送、SBS ラジオ、日刊県民福井、福井テレビ、新潟日報社、福井新聞、丹南ケーブルテレビネットワーク、嶺南ケーブルテレビネットワーク、山陽新聞社、西日本新聞社、テレビ西日本、FBS 福岡放送、RKB 毎日放送



イベント

小児がん 交流フェスタ 2024（共催：国立成育医療研究センター小児がんセンター）
LIVE EMPOWER CHILDREN2024（主催：一般社団法人 Empower Children）

* その他、全国多数の商業施設等で募金・啓発活動にご協力をいただきました。

キャンペーンの報告等、詳細は facebook でもご紹介しております。
<https://www.facebook.com/mamorukai1968/>

小児がん啓発月間(Childhood Cancer Awareness Month)の活動～Global Gold September Campaignへの協力(継続)

毎年9月に世界中の小児がん団体が「小児がん啓発月間 / Childhood Cancer Awareness Month」として、小児がんの理解を促し支援を求めることを目的に様々な活動を行っています。2023年度も日本小児がん研究グループ(JCCG)の呼びかけに応じて、ゴールドのライトアップで小児がんへの理解・支援を呼びかける世界的な啓発イベント(Global Gold September Campaign: GGSC)に協力しました。北海道支部によるさっぽろテレビ塔、九州西支部による稲佐山山頂電波塔と佐賀メディカルセンタービルのライトアップに加えて、2023年度は関西支部による彦根城のライトアップも実現しました。また浅草橋・亀戸・大阪の各ハウスでの飾りつけも行いゴールドセプテンバーの活動に協力しました。

8 国際活動

国際小児がんの会 (CCI/Childhood Cancer International) 年次総会への参加

当会は国際活動として長年に亘り、国際小児がん学会 (SIOP / International Society of Paediatric Oncology) と同時期に開催される国際小児がんの会 (CCI / Childhood Cancer International) 年次総会への参加を公募で募る派遣事業を、小児がん患児の親及び小児がん経験者を対象に実施してきました。本事業は、より多くの親や経験者の方々が国際的な小児がん患者・家族支援の活動に直接触れる機会を持つことにより、グローバルな視点で当会の活動とその使命について考えていただくことを目指しており、2023年度は5月20日～21日にマレーシアのクチンで開催されたCCIアジア年次総会に理事長が参加しました。また、10月11日～14日にカナダのオタワで開かれた第29回CCI年次総会に、親1名、経験者1名及び理事長の計3名が参加しました。

なお、CCIの加盟団体は、2023年10月現在93ヶ国183団体となり、活発な活動が続いています。

PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

開発途上国等の国際小児がんの会 (CCI / Childhood Cancer International) 年次総会参加を支援するための基金 [PHPF] に600ユーロの寄付を行いました。

9 奨学金事業 (アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度)

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの思いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。2015年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店 (アフラック全国アソシエイツ会) の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

対象者	<ul style="list-style-type: none"> 18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。 給付開始時に高等学校等に在学中の方。 申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。
対象となる教育機関	「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般課程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」
給付金額	<ul style="list-style-type: none"> 月額20,000円 対象となる教育機関で正規の最短修業期間。 奨学金の返還は原則不要。
2023年度実績	小児がん経験者：助成件数 70件 (高1 15件、高2 24件、高3以上 31件) がん遺児：助成件数 324件 (高1 70件、高2 110件、高3以上 144件) 合計：助成件数 394件 (高1 85件、高2 134件、高3以上 175件) 給付金額：92,740,000円

10 ボランティアコーディネート・研修会

(1) ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所 (東京) と大阪事務所で延べ380名 (うちペアレンツハウスボランティアとして244名) からボランティア協力をいただきました。本年度は、コロナ禍以前の活動に徐々に戻り対面での活動も行うことができました。また当会にてボランティアとして登録される方にはボランティア研修を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。



11 調査研究協力

2023年度の当会への調査研究に関連する協力の依頼は2件あり、下記2件について調査研究委員会の承認が得られ協力いたしました。

研究名称	協力内容
小児がんの子ども入院中の学校生活に関する情報の入手状況に関する調査 村上 理恵（広島大学大学院人間社会科学研究科）	対象者：幼稚園・保育園から高校3年生までで、現在、入院、治療、療養中のお子様がいらっしゃる保護者 方 法：インターネットによるアンケート調査
子どものアピアランスケアに関するアンケート 石嶋 瑞穂（一般社団法人チャームングケア代表）	対象者：病気に罹患し見た目に変化を経験した子どもや保護者 方 法：インターネットによるアンケート調査

12 年次大会

2023年6月11日（日）「小児・思春期がん患者の移行期を考える」をテーマに年次大会を開催しました。本年度は会場とライブ配信のハイブリッドで開催し、約140名の方にご参加いただきました。講演については「のぞみ」215号に講演録を掲載し、報告しました。

①講演

- 成人移行支援概論と実際の支援
東京都移行期医療支援センター 移行期医療支援コーディネーター 青木 裕美先生
- 小児がん長期フォローアップから始まった千葉移行期医療支援センターの取り組み
千葉大学医学部附属病院 小児科 医師 日野 もえ子先生

13 クリスマスプレゼント

昨年に引き続きコロナ禍の中でも治療を頑張っている子どもたちが少しでも笑顔になれるようにと、全国の小児病棟等へのプレゼントについてAmazonのウィッシュリストやYahoo!募金も活用させていただき、ご協力をお願いをホームページやブログでご案内いたしました。個人の方や企業の方から、おもちゃ、文具、帽子やぬいぐるみ、カードゲーム、絵本など多岐に渡る品が届き、これらは当会の支部や小児がん親の会、小児がんの診療施設などを通じて全国50ヶ所の約1,400人の小児病棟に入院中の子どもたちや療養中の子どもたちにお届けすることができました。

ご支援いただいた皆様

モルガン・スタンレー、武州製薬株式会社、東京上野東ライオンズクラブ、エア・ウォーターメディカル株式会社、ニューエラジャパン合同会社、スタイリングライフグループ及び大勢の個人の方々からも多数のプレゼントをご支援いただきました。

14 物品・ボランティアのご協力（敬称略・順不同）

物品寄付

あずまさん、アフラック青森県アソシエイツ会、アフラック秋田県アソシエイツ会、アフラック宮城県アソシエイツ会、アフラック東京コーポレートブロックアソシエイツ会、アフラックアソシエイツ会名古屋鳴尾郵便局有志、アフラック近畿ブロックアソシエイツ会、アフラックサンタボランティア、アフラック生命保険株式会社、アフラック生命保険株式会社広域法人営業部、アフラック生命保険株式会社お客さまサポート部お客さまサポート課 小玉 淳一、アフラック保険サービス株式会社、アフラック・ハートフル・サービス株式会社、雨宿りには音楽を、新井 睦季・周代、石野田 まどか、伊東 悠花、岩佐 美紀、おあしす福祉会、大窪 幸恵、大橋 孝次、織田 喜一、株式会社 エイ・ダブリュ・ジェイ、株式会社 第一総合企画、株式会社 cochi、株式会社 新旭サービス、株式会社 ハピネス、株式会社 フォワード、株式会社 シンシア、株式会社 日産通商、橘田 えみ、橘田 潤、竹村 友里、公益社団法人 スコーレ家庭教育振興協会、小林 千宏、小松 仁、五郎丸、佐々木 真一、株式会社 サンスマイル、清水 康子、庄司 美喜子、菅原 さとみ、全国心臓病の子どもを守る会、第一三共ヘルスケア株式会社、第一生命保険株式会社 金沢支社金沢営業職域営業オフィス、第一生命保険株式会社 関西コンサルティング営業室、第一生命保険株式会社本町営業所、第一生命労働組合都心マーケット営業室支部、大同生命保険株式会社有志、大和証券ファシリティーズ株式会社 コンシュルジュ事業部、台湾観光協会東京事務所、武川 智子、高木 信隆、高遠 勲・あい、竹林 栄子、田島 幸美、チェン イマン、土屋 健治、Denis Japan株式会社（日仏貿易株式会社）、東京ガス星光会、戸谷 秋子、ナオカケル虹のプロジェクト、中 弥生、日本データカード株式会社、原田 隆夫、ファミケア株式会社（吉田、丸山、星野）、藤岡 八重子、保険オフィスさとう、松浦 雅美、丸全商事株式会社、マルサンアイ株式会社、マルホ株式会社、三上 正美、宮崎 志保、村部 美幸、村松 郁美、矢元、余 忠、株式会社 NXワンビシアーカイブズ 業務サービス部 関東第4センター、大和証券グループ本社経営企画部 サスティナビリティ推進室、BLEA学園、Tom Dunn

ご招待

アフラック生命保険株式会社、毎日新聞社、川島成道音楽事務所 他

募金活動、他ボランティア活動

アフラック生命保険株式会社、小野薬品工業株式会社、ガーダントヘルスジャパン株式会社、サノフィ株式会社、第一生命保険株式会社、プリストル・マイヤーズスクイブ株式会社、モルガン・スタンレー

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～



寄付・募金者一覧

(2023年4月1日～2024年3月31日)



寄付者一覧

※敬称略

Blue Buddy株式会社 bois 株式会社 CES.線研究所 株式会社 CFP 株式会社 Fast Fitness Japan 株式会社 gingerup IHD株式会社 iネットリフォーム株式会社 NPO法人 TeamNET Proclinical株式会社 RAIN MAKER 株式会社sante Sugiyama Paint Thomas Dunn 株式会社ZEROPLUS 相川 勝 愛知製鋼株式会社 青木 伸夫 青木 妙江 青森山田こども園 赤城 剛 赤星塗装 赤松 栄治 秋本 俊治 秋山 由里子 株式会社 アクセア 阿久津 好治 株式会社 アクティブ 株式会社 アコーセラミック 浅井 修平 浅井 秀樹 朝倉 浅田 博司 浅野 浩 有限会社 朝日消毒 浅見 俊郎 浅見 美紀 アストラゼネカ株式会社 あすなる投資顧問 東 博行 足立 エリ子 足立 義一 株式会社 アツマル住建 アフラック横浜支社 アフラック東京総合アソシエイツ会 阿部 咲子 阿部 光恵 アポットジャパン株式会社 天瀬 毅 天野 祐作 雨宿りには音楽を実行委員会 代表 岡部 昭 編み物を愛する会 アムンディ・ジャパン株式会社 新井 孝史 荒井 健太郎 荒尾ライオンズクラブ 荒川 明 荒牧 圭 有川 香菜子 有吉 正博 アンダーソン 奈津子 飯島 佐和子 飯塚 敦夫 EY Japan株式会社 家原 知子	五十嵐 香織 五十嵐 央 井口 健一郎 池田 啓朗 池田 修子 伊佐 龍寿 石井 哲 石井 誠一郎 石垣 淳子 石上 久美 石川 孝成 石川 幸雄 石野 かおり 石原 知美 石原 節子 石原 貴泰 石山 和志 出水ライオンズクラブ 磯貝 篤 磯邊 謙二郎 磯部 直美 一瀬 すみ 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 市原 真 井手 真弓 伊藤 晶子 伊藤 圭 伊藤 翔 伊東 真由子 伊藤 由美子 伊藤 りさ子 伊藤忠商事株式会社 伊藤 春香 稲垣 干枝 稲畑産業株式会社 稲葉 宏明 穂波ライオンズクラブ 稲村 裕 福永 あけみ 井上 敦幹 井上 彰子 井上 綾 井上 清美 井上 工 井上 敏克 井上 俊文 井上 良子 伊野波 盛郁 伊野波 盛俊 井原 拓 今井 健太 今井 正 今川 裕規 今村 薫 株式会社 今与 医療法人社団 もがほ会武蔵小山さいとうクリニック 医療法人 卓友会 巖 敦徳 弁護士 岩上 公一 岩倉 良昭 岩田 吉郎 飯谷産業株式会社 岩谷 実・ゆうた 岩永 智代 岩本 浩久	インテリアウエーブ 宇井 圭介 ウェスプ ベーター・絵理 上ノ山 信宏 上原 みどり 植松 淳子 上本 敬 ウェルネス・コーチ株式会社 羽 成就 内田 明 内田 道治 内田 晃市 宇羽野 哲生 海のそばのカフェ bliss point 株式会社 梅原洋紙店 浦本 敬子 株式会社 エイティー エーザイ株式会社 筑波研究所 AGCマイクロガラス株式会社 株式会社 Agent 江戸 靖浩 株式会社 sante 遠藤 経雄 大垣センチュリーロータリークラブ 大木 貴子 大木 綱雄 大久保 俊樹 大久保 一恵 大蔵 隆彦 大阪ヴァイオレットライオンズクラブ 大阪府宅地建物取引業協会 中央支部 社会福祉法人 大阪府母子寡婦福祉連合会 大崎 誠 大澤 信吾 大島 泰子 太田 真人 太田 浩史 有限会社 大瀬設備事務所 太田 卓秀 大谷 洋行 大谷 里絵 大塚 充 大西 紀子 大西 淳一 大野 るみ子 大野城ライオンズクラブ 大場 幸夫 大原小児がん基金 大牟田デイジーライオンズクラブ 大村 直史 大森 豊寛 岡倉 慶子 株式会社 OKAZAKI 岡澤 和彦 岡田 哲一 岡部 美樹 岡本 奈 岡本 幸一 岡本 達幸 岡本 葉子 小川 光枝 小川 修 奥平 耕一郎 奥野 隆博 奥野 達也	越阪部 正徳 小澤 綾子 小田 真広 小田川い<こ 小田切 喜一 落合 章 小友 勇人 小野 雅人 小野 智久 おのうえこどもクリニック 小野寺 宇嗣子 小野寺 翼 小野薬品工業株式会社 小野 泰正 甲斐 恵 海田 由美子 花王株式会社 香川大学医学部付属病院 柿原 稔永 景山 高行 鹿児島中央ライオンズクラブ 柏倉 光孝 梶原 敦子 片山 麻子 勝浦 広基 勝瀬 求 勝俣 花菜 加藤 友和 加藤 廣久 加藤 佑弥 加藤 芳和 金森 裕三 金山 直司 金子 武行 金澤 剛二 兼松株式会社 嘉麻市立嘉穂図書館 鎌田 政之 神藏 栄市 亀井 加代子 鴨作 卓弥 烏谷 知明 刈谷 雅夫 軽部 裕美子 河合 大輝 川井 敦 川神 麻友 川口 弘二 川崎 浩 河出 トシ 川端 文香 川藤 等 河村 陽子 川村 奈緒美 木口 麻美 菊地 眞幸 岸田 恭二 岸田 智美 北原 義明 北村 美穂 北村 充 キッコーマン株式会社 木下 成顕 木原 陽佑 木村 幸久	木本 タマコ きもべつ喜らめきの郷 キヤノン株式会社 キヤノンメディカルシステムズ株式会社 有限会社 キャピタル 九州大学病院 共立インシュアランス・ブローカーズ株式会社 日下 みゆき 株式会社 草むしり 楠井 晶 工藤 彩都 工藤 悠真 功刀 理志 久保 香 久保 スミ子 久保木 裕子 久保田 一男 窪田 正幸 熊谷 佐織 熊谷 則一 隈崎 哲也 熊本歯科衛生士専門学校 熊本火の国ライオンズクラブ 熊本龍峰ライオンズクラブ 有限会社 クリエイト 栗山 宣夫 榎沢 静枝 暮部 勢子 株式会社 グローウィング 黒川 征治 黒木 智 黒田 綾子 黒羽 薫 桑江 賢治 株式会社 ケイイングス 小泉 晶一 公益財団法人 原田積善会 公益財団法人 毎日新聞東社会事業団 公益財団法人 お金をまわそう基金 公益社団法人 豊島法人会 甲佐ライオンズクラブ 高知医療センター すこやかA 合同会社 amitie 河野 真明 株式会社 神戸製鋼所 興和株式会社 コカ・コーポラトランスジャパン株式会社 古賀印刷株式会社 小郡ライオンズクラブ 小崎 日義 小嶋 美奈子 小菅 小谷 理恵 小玉 智美 後藤 修平 後藤 雅 ゴトウ ユウト ゴドモカフェ オトナバーTUMMY 小林 庸子 小原 怜子 駒形 成美 五味 貴弘 小宮 毅 五明 鉄司 株式会社 コムネット 米野 雅晴 株式会社 コモディイダ 小山 雄貴 権藤 愛 近藤 亜有子 近藤 博和 最所 健悟 財津 克典 斎藤 孝 齋藤 正博	齋藤 隆 酒井 あゆみ 酒井 恵三朗 酒井 晴一郎 堺 久枝 酒井 三貴子 酒井 信夫 阪上 正 榊原 悠児 榊原 義夫 株式会社 阪口メンテナンス 坂田 浩章 坂田 年 サカタ ヤスヨシ 佐賀中央ライオンズクラブ 佐賀西ライオンズクラブ 阪本 哲男 嵯峨山 聖子 佐久田 朝功 作間 智恵 酒処てい一だ 佐々 信子 笹岡 正顕 笹川 裕幸 佐々木 由紀子 佐々木 英之 サザン調剤薬局 北町店 佐世保ライオンズクラブ 佐藤 幸子 佐藤 尚司 佐藤 浩樹 佐藤 明子 佐藤 祐佳里 鯨島 猿渡 晴子 沢井 俊徳 澤田 敦子 沢田 祐子 澤邊 めぐみ 株式会社 三平商会 山陽レジャーサービス株式会社 椎名 延年 椎原 春美 CBC株式会社 JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 塩津 伸司 塩見 喜代子 志田 健一 篠田 章 芝崎 瑠子 柴田 宗樹 渋谷 美恵子 島野 忠之 嶋本 正 清水 美穂 清水 康子 一般社団法人 ジャパンケルクラブ 大阪ブロック協議会 株式会社 ビーエル 宿南 正二 荘司 英彦 笑福亭 代表 金測 誠 白井松新薬株式会社 白川 安佐子 株式会社 シリウス 神宮 裕里枝 一般社団法人 信託協会 新田原郵便局 杉生 美佐子 杉田 完爾 杉村 久理 杉本 奏 カレンカップ 鈴木 景太	鈴木 佐代子 鈴木 正洋 鈴木 麻由 鈴木 美智子 鈴木 ゆづ子 鈴木 優輔 鈴木 良子 鈴木 賢作 鈴木 信行 鈴木 秀人 鈴木 秀範 鈴木 雅志 鈴木 美文 スタジオフェリス スタジオフィリス 住友商事株式会社 住友ファーマ株式会社 医療法人 すみれ会 中央病院 聖愛美装工業 一般社団法人 生命保険協会 税理士法人 山根会計事務所 関 寛枝 関口 和美 関根 苑子 関水 麻衣 関谷 朝子 全 東顕 一般社団法人 全国銀行協会 一般社団法人 全国信用金庫協会 千田 学 ST.BALDRICK'S FOUNDATION 株式会社 相建 双日株式会社 曾根 宏磯 園 克彦 第一生命保険株式会社 大阪コールセンター 第一生命保険株式会社 大阪南支社 第一生命保険株式会社 関西コンサルティング営業室 第一生命保険株式会社 本町事業所 第一生命労働組合 だいき動物病院 高橋 大記 大同特殊鋼株式会社 大石石村・ロックハート城 椎名 延年 椎原 春美 CBC株式会社 JFE商事株式会社 JFEスチール株式会社 塩津 伸司 塩見 喜代子 志田 健一 篠田 章 芝崎 瑠子 柴田 宗樹 渋谷 美恵子 島野 忠之 嶋本 正 清水 美穂 清水 康子 一般社団法人 ジャパンケルクラブ 大阪ブロック協議会 株式会社 ビーエル 宿南 正二 荘司 英彦 笑福亭 代表 金測 誠 白井松新薬株式会社 白川 安佐子 株式会社 シリウス 神宮 裕里枝 一般社団法人 信託協会 新田原郵便局 杉生 美佐子 杉田 完爾 杉村 久理 杉本 奏 カレンカップ 鈴木 景太	竹島 開 竹島 博一 武田 伸子 竹田 明治 竹中 野土香 竹中 由佳 竹中 玲央奈 武山 ゆかり 田島 慎吾 田島 孝憲 辰野 嘉則 田中 雄 たなか りえ 谷藤 成味 谷山 健太郎 玉井 克明 玉井 紀好 玉川 京子 玉城 美代子 田村 直樹 垂井 浩 丹野 泰 筑前東部地区協会 千葉 茉莉 千葉 浩一郎 千葉 誠 有限責任事業組合 チャイルドケア研究所 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 ダイヤモンド株式会社 張 光陽 丁田 美奈子 蝶理株式会社 株式会社 直建 有限会社 築地こっしん太助 津久見ライオンズクラブ 辻 尚人 辻林 温子 津田 治 土屋 光崇 津野 栄治 釣谷 克樹 鶴岡 侑真 多賀 哲男 寺岡 智欣 寺岡 智子 寺嶋 憲司 東京マリオットホテル 東京メディカルライオンズクラブ 當山 美枝 渡海 至康 砥上 梨枝子 特定非営利活動法人 子ども療養支援協会 徳永 信行 徳永 真一郎 結和工業株式会社 一般財団法人 凸版印刷三幸会 荒木 明子 星野 友美子 土屋 文代 土手 多喜子 土沼 健成 トビー工業株式会社 富田 友昭 富田 基生 富田 智恵 富山福祉短期大学 豊岡 正仁 豊田 純子 豊田通商株式会社 豊津郵便局 トライム 吉田屋 内藤 真澄 内藤 龍平
---	--	---	--	---	---	--	---



直方ライオンズクラブ 永井 幹人 中尾 憲治 中川 雅洋 長倉 輝明 中澤 和男 中澤 智史 中澤 弘美 中島 悦子 中嶋 幸生 中島 緑 永瀬 譲二 長瀬産業株式会社 中田 誠一郎 中田 巧 長津 克司 中野 澄枝 永野 孝志 中野 啓史 長野 美紀子 中野 桃子 中畑 龍俊 中鉢 慎 中鉢 鈴子 中原 せつ子 永原 勢津子 中平 和哉 永平 もえぎ 中間 くみこ 仲間 千夏 中丸 愛子 中村 和路 中村 桂井子 中村 大介 有限会社中村産業 中村 高士 仲本 千佳子 中山 恵介 中山 裕 株式会社なゆた 名和 久子 南部 昌弘 新岡 なおみ 新村 昌弘 西 正 西井 一博 西島 加代子 西田 知佳子 西田 幸枝 西出 稔 西野 やす子 西部 雅 西村 重郎 西村 正司 西村 幹雄 西山 顕実 西山 慶太 株式会社 日幸金属工業所 日鉄物産株式会社 二宮 和子 二ノ宮 サナエ 日本医科大学千葉北総病院 一般社団法人 日本ガス協会 一般社団法人 日本建設業連合会 社会貢献活動協議会 日本小児がん研究グループ 日本製紙連合会 日本製鉄株式会社 日本郵便株式会社 九州支社 北九州市地区連絡会 日本労働組合総連合会 株式会社 ニヤクコーポレーション 株式会社 NEWOLD CAPITAL 庭前 裕樹 認定特定非営利活動法人 朴の会 根本 知子 ノーベルファーマ株式会社	岡野 いつ子 鎌田 泉 隈本 弘美 栗原 早苗 村山 誠 野島 尚恵 野田 文美 野知 有郁子 野中 竜巳 ノバルティス ファーマ株式会社 延 浩子 延田 尚史 Harvey Paul A.S. 羽賀 洋一 荻原 裕司 萩原 明子 橋浦 由記子 橋上 道生 橋部 浩平 橋本 淳子 橋本 真浩 馬上一 星一 馬上 豊 長谷川 浩一 長谷川 遥香 羽田野 剛史 服部 忠 馬場 一義 馬場 仁美 濱 克彦 浜谷 秀孝 濱野 幸枝 早川 晶 林 志郎 林 富 林 和広 速水 節子 原澤塗装 株式会社原田重量 半澤 秀紀 阪和興業株式会社 東山 涉 樋口 厚子 一般社団法人彦根薬剤師会 肥後東ライオンズクラブ 肥後黎明ライオンズクラブ 火ノ川 好信 株式会社 Human 平井 俊子 平井 博夫 平瀬 友博 平野 龍一 平山 忠之 廣瀬 靖夫 廣長 茂樹 ファーベル ファミリーダ・ラーマン 株式会社 Fortune KK 深澤 晋 深田 久典 福井 涉 福井県健康福祉部 保健予防課 福井 盛一 福岡グローバリライオンズクラブ 福地 誠一郎 富国生命保険相互会社 札幌支社 藤井 海 藤岡 由佳 藤沢室内装飾 藤田 聖也 藤田 秀明 富士電機株式会社 藤野 香織 藤平 一雄 藤村 正	藤本建設株式会社 藤山 優子 武州製薬株式会社/武州製薬ユニオン 藤原 隆司 二見 浩之 普通鋼電炉工業会 普通津澤 稜 一般社団法人 不動産協会 船越 美津子 株式会社 ブランワークス 株式会社 フリーデン プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社 古家 美由紀 株式会社 プレステージ・コアソリューション 普通連学園 宗教委員会 別所 文雄 紅林 彩斗 ヘルテック トレーディング株式会社 株式会社 ヘルライフ 逸見 仁道 株式会社 星企画 星野 隆志 星村 和友 細川 浩義 細田 裕美 ほのぼのサロン 堀川 健仁 堀川 哲男 堀口 悦子 堀口 貴宏 堀越 拓視 堀本 登 本馬医院 まえかわこどもクリニック 前嶋 仁美 牧野 郁雄 眞尾 貴年 樹井 沙霧 益田 晴代 樹谷 真 舛本 大輔 柘本 守生 町田 佐織 松井 康代 松井 秀文 松川 景 松川 景子 松川 幸太郎 松熊 光子 松阪 直美 松澤 亜紀 松田 恵子 松田 知絢 松田 信夫 有限会社 松田興業 松谷 佳代 松田 道郎 松永 絵理子 松永 憲一郎 松村 尊美恵 松村 伸子 松本 登紀子 松本 明 松本 丈弘 松本 泰信 真部 淳 真鍋 三恵 丸谷 杏菜 丸谷 由美子 丸紅株式会社 丸山 昌宏 丸和バイオケミカル株式会社 三浦 淳子 三浦 貞夫 三浦 里美	三浦 淳幸 三上 悦子 三上 清子 三上 豊 三川 勝夫 三木 聖子 御厨 年和 三澤 易功子 水柿 多香子 水島 正人 水代 富雄 三井 哲夫 三井物産株式会社 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 御堂21倶楽部 水俣ライオンズクラブ 藪島 みほこ 宮城 順 三宅 康朗 宮崎 志保 宮崎 ひと美 宮崎芳士郵便局 宮澤 敦子 宮澤 初恵 宮下 希喜 宮田 淳子 宮原 伽奈 宮本 薫 株式会社 宮本左官工業 株式会社 みらい 美輪 円 向井 健人 牟田 謙一 武藤 秀行 村上 智香 村上 龍平 村川 愛子 村越 美香 村田 耀星 村山 将人 室谷 哲哉 明光学園中学校・高等学校 明治安田生命保険相互会社 メスキュード医療安全基金 メディカル・モバイル・コミュニケーションズ合同会社 免田ライオンズクラブ 毛利 将吾 元田 雅弘 本松 桂子 森 賢治 森 克嘉 森 賢治 森 康司 森口 智之 森口 敦司 森島 隆 森島 美寿季 森園 美智子 森山 康基 守山内科・小児科 矢尾板明聡 株式会社湘南外景 安池造園土木 安田 彩生 安ふれあいセンター百歳体操 楊井 正紀 柳澤 隆昭 山内 秀晃 山内 正成 山内 奈緒子 八巻 恭治 山口 利子 山崎 篤史 山崎 聡
--	--	--	--

山崎 淳士 山崎 文之 山崎 由佳 山里 浩明 山下 公輔 山下 美香 山下 雄一 山下 恭平 山田 勝三 山田 資子 山田 豊 山田 研一 大和 健一 山部 智寿 山村 祐司 山室 達夫 山本 勝利 山本 佳子 山本 信江	山本 好子 山本 和加子 山本 智支 山本真由美 雪松 雅士 余 忠 横澤 浩美 横堀 隆 横幕 航平 横山 幸恵 吉岡 幸代 吉岡 佑樹 吉川 隆 吉田 充里 吉田 裕一 吉田 健太郎 吉田 新之介 吉野 智子 吉正 久美	吉村 公一 株式会社 淀川製鋼所 米倉 邦子 ラーメンエニシ ライオンズクラブ国際協会332-E地区 ライオンズクラブ国際協会337A地区 ライオンズクラブ国際協会337-A地区 3R-425クラブ ライオンズクラブ国際協会337E地区 ライオンズクラブ国際協会330-C地区 キャビネット事務局 ライオンズクラブ国際協会337-E地区 ライオンズクラブ国際協会FWT委員会 LIVE EMPOWER CHILDREN2023 ラッセル・インベストメント株式会社 力武 英一郎 霊山寺 一般財団法人 緑風会 株式会社 リンクフロンティア レモネードスタンドしまね 有限会社 ログバ	株式会社 ワールドファミリー 若尾 和久 若杉 和枝 若林 淳二 和田 敏和 ワタキューセイモア株式会社 渡邊 雅子 渡部 眞澄 渡邊 恵 渡部 浩 有限会社 ワタナベフォトスタジオ 城北建設株式会社
--	--	--	---

上記の他、アフラック生命保険株式会社、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（4,828件）をいただきました。
このほか株式会社岡三証券グループ創業100周年寄付型クラウドファンディングも活用させていただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

募金者一覧

※敬称略

株式会社 Fortune KK yu a re 美容室 片岡裕美 味の嘉づき 維新エンターテインメント株式会社 医療法人 たにざき皮膚科クリニック 株式会社 K2 インターナショナルジャパン 関西学院高等部吹奏楽部 吉祥寺 ひまり屋 黒田郵便局 馬場 勇 有限会社 酒ハウス ヤマヤ	小児看護学会 税理士法人 松本 聖路加小児医療センター 株式会社 ソヴリックコーポレーション ソフトバンク株式会社 第一生命労働組合 大阪北支部 第一生命労働組合 大阪南支部 張 光陽 有限会社 築地にしん太助 トリオ・ミーナ	中田中央歯科医院 株式会社 なゆた 沼津経営塾 博多南郵便局 かんぼサービス部 ひまわりスマイルプロジェクト 福岡徳洲会病院 道の駅 伊豆ゲートウェイ函南 道の駅 風穴の里 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 メディカルライオンズクラブ	モルガン・スタンレー 株式会社 もんしち ヤフー株式会社 株式会社 コメテラス ラヴィータンサンプルチャリティコンサート 龍津寺 レモネードスタンド in ふくおか 実行委員会 レモネードスタンド NIIGATA レモネードスタンド しまね ローソン浜寺石津西4丁店
--	--	--	--

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。
・寄付：特定の個人や法人から集まった募金
・募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

公益財団法人がんの子どもを守る会2023年度事業報告書

2023年4月1日～2024年3月31日

2024年6月7日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL03-5825-6311(代表)